


常葉大学 地域貢献センター

活動報告

発行 2019年4月

常葉大学 地域貢献センター



常葉大学
常葉大学短期大学部

<https://www.tokoha-u.ac.jp/>

<https://www.tokoha-jc.ac.jp/>

[地域貢献センター 地域貢献課]
〒422-8581 静岡県駿河区弥生町 6-1
TEL : 054-297-6142

[水落地域貢献課]
〒420-0831 静岡県葵区水落町 1-30
TEL : 054-297-3200

[浜松地域貢献課]
〒431-2102 浜松市北区都田町 1230
TEL : 053-428-6748



目次

はじめに	2
ごあいさつ（『地域なくして本学の存在なし』、『常葉大学の地域貢献』）	
地域貢献センターの開設	
地域貢献センターの使命	
地方自治体等との包括的連携の推進	5
包括的連携協定の締結	
協定締結先との連携事業	
公開講座の開催	8
各キャンパスにおける公開講座の実施	
学生の地域貢献活動への支援	9
ここは未来塾 ～TU can Project～	
事業報告会	
学生のボランティア活動.....	11
Link	
ココスタ	
地域交流・連携推進事業.....	12
平成 30 年度採択事業	
前年度採択事業の実施報告会	
自治体等の助成金を活用した地域貢献事業	13
しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業	
藤枝市地域政策研究・創造事業	
地域・企業等との連携事業.....	14
メディア等での報道	15
地域貢献センター関連事業のメディア等での報道	
センター長からのメッセージ	18
『スタートアップ』	

センター長からのメッセージ

～スタートアップ～

常葉大学地域貢献センター長 須佐 淳司



2018年4月、静岡草薙キャンパスの新設にともない、地域貢献センターが誕生しました。本学の地域貢献は、これまでも多くの教職員ならびに関係者によってなされてきました。本センターの開設は「三本の矢の教え」のごとく、地域貢献による結束力を本学全体で一層高めるためであります。

他方で地域貢献への考え方、解釈は十人十色ですが、地域貢献事業を通じて本学のブランド力向上に寄与する点で収斂していきます。

船出したばかりの本センターを、周りの協力を得ながら発展させていきたいと思っております。このことを念頭において、本学の地域貢献活動に一層取り組んでまいります。

引き続き、みなさまの温かいご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

地域貢献センターの一同を代表して



No.	掲載日	媒体名	タイトル	概略
16	3月9日	静岡新聞	常葉大生 絵本を制作	日本赤十字社県支部は常葉大造形学部の学生に依頼して制作した絵本の引き渡しを実施。学生らは約半年かけて登場人物や背景の挿絵を手掛けた。
17	3月12日	静岡新聞 朝日新聞 読売新聞	キャンドルに復興願い	東日本大震災から8年を迎えた11日、鎮魂と復興への願いを込めたキャンドルナイトが開催された。浜松市中区アクト通りでは「3.11復光キャンドルナイト」を実施。県西部を中心とした学生ら130人が1万本の蠟燭に火を灯した。 実行委員長のコメント：常葉大3年・島田耀平さん 「災害を忘れず教訓を活かすことが重要。静岡でも大地震の発生が予測される中、備えの大切さを伝える機会にもなれば」



2019年3月9日（静岡新聞）

2019年3月12日（静岡新聞）

はじめに

ごあいさつ

～地域なくして本学の存在なし～



常葉大学学長 江藤 秀一

常葉大学は静岡県内二大都市であります静岡市と浜松市にキャンパスを有し、それぞれのキャンパスにおいて、公開講座をはじめ、地方公共団体等との連携事業や学生の地域貢献ボランティア活動などを活発に行っております。

地域なくして本学の存在なしとの認識の下、これまで以上に地域に開かれた大学を目指し、なお一層地域への貢献を推進するために、昨年4月の草薙キャンパス開設を機に地域貢献センターを設置いたしました。

本センターを拠点とし、今後とも地域の皆様のご協力を賜りながら、地域に貢献できる有為な人材育成に努めてまいります。どうぞ今後とも本学の地域貢献活動にご支援のほどをお願い申し上げます。

～常葉大学の地域貢献～



常葉大学副学長（地域貢献センター担当） 小田切 真

近年、大学の役割として「地域貢献」が強く求められております。常葉大学におきましても、平成25年度の統合を契機に「地域貢献」を教育理念の一つに掲げ、多くの教職員・学生が地域に足を運び実践的な教育・学修活動を通して、地域の方々と共に様々な課題と向き合ってきました。

地域が直面する課題は多極重層化しています。これら課題解決のニーズに応え、地域との連携を組織として積極的に推進するため、平成30年4月に「地域貢献センター」を設置しました。

今後、このセンターが中心となり、地域が求める人材育成、研究成果・知的資源の地域への還元等、地域貢献に一層力を入れて取り組んでいきます。

地域貢献センターの開設

～地域課題を解決し、学生の主体性を育てる新たな拠点～



今、大学には、教育、研究に加え「社会貢献」が大学の果たすべき第3の使命として位置づけられています。

常葉大学は、2018年4月の静岡草薙キャンパス開設を機に、これまで以上に地域に開かれた大学を目指し、組織的に地域への貢献を促進するために、地域貢献センターを開設しました。このセンターの開設により、地域社会の動向やニーズを的確に捉えて、本学が地域連携の拠点となるよう努めています。

開設の目的

- ◆建学の精神および教育理念を具現化する
- ◆高等教育機関としての「知的財産」を社会へ還元する
- ◆地域社会の活性化および進展に貢献する
- ◆大学が組織的に活動していくための「地域連携の拠点」とする
- ◆学生と地域の方をつなげることで実践的な教育を推進する
- ◆地域社会に貢献できる人材を育成する



推進体制/組織

地域貢献センター長	須佐 淳司（経営学部・准教授）
地域貢献副センター長	木村 佐枝子（健康プロデュース学部・准教授） 柴 由花（法学部・教授）
地域貢献センター顧問	木宮 岳志（常務理事） 熱川 裕 須山 嘉七郎
地域貢献センター運営委員会	各キャンパスの教員等 10名で構成
地域連携推進委員会（小委員会）	草薙・瀬名、水落、浜松の各キャンパスに設置
地域貢献課	草薙・瀬名、水落、浜松の各キャンパスに計5名の専任職員を配置



No.	掲載日	媒体名	タイトル	概略
8	11月2日	静岡新聞 読売新聞	常葉大、県警と協定 地域見守りランパト活動 開始	常葉大と県警は防犯・交通安全活動や人材育成分野での包括連携協定を締結。安全で安心な地域づくりへの貢献を目指す。 締結式終了後、出発式が行われ「若い力を社会貢献につなげたい」と宣誓し、同大の学生12名が警察官とともに校舎周辺の市街地のパトロールを実施。
9	11月8日	静岡新聞	プログラミング教育へ実践事業 静岡市 タミヤ、常葉大と共同	2020年度から小学校で必修化されるプログラミング教育の実践研究授業を西豊田小で開催。授業は模型メーカーのタミヤと常葉大との共同で準備され、地元の産学官が連携した新たな取り組みとして注目される。
10	11月30日	静岡新聞	学生が食生活学ぶ 常葉大 栄養ランチや骨密度測定	大学生向けの食育講座「0円カフェ」が常葉大学静岡草薙キャンパスの学生食堂「トコ・カフェ」で開催された。同大の学生40人が栄養バランスの整ったランチを味わいながら、食生活で気を付けるべき点を学んだ。
11	12月1日	静岡新聞	静岡で「プレ金大学」 地域活性化事例公開講座で紹介	常葉大静岡草薙Cで11月30日に同キャンパスの設計や地域活性化の取り組みを紹介する公開講座が開催された。社会人向けに新たな学びの場を提供しようと経産省が全国各地の大学を会場に立ち上げた「プレ金大学」の事業。同大学の関係者らが新しい時代の大学や地域の在り方を語った。
12	12月15日	静岡新聞	年末警戒ランパト出動	しずおかランニングパトロールの自主パトロール活動が静岡市葵区の繁華街で実施された。登録ランナーの会社員や常葉大生など計約10人が参加。
13	2019年 1月20日	静岡新聞	街の魅力づくり 学生が 成果発表 草薙でインターンシップ	静岡市は清水区草薙地区で大学生を対象に進めてきた「草薙まちづくりインターンシップ」の最終回を草薙東西自治会館で開催し、常葉大生や県大生ら24人が参加して草薙川周辺で取り組んだライトアップによるまちづくりの成果を発表。
14	2月17日	静岡新聞	地場食材で新メニュー ふじえだガールズ・ミーティング	若い女性の目線から魅力あるまちづくりを進める藤枝市の取り組み「ふじえだガールズ・ミーティング」のメンバーが地元特産の食材を使ったオリジナルメニューを開発。ガールズ・ミーティングのメンバーは市内など6つの高校と静岡産業大や常葉大など市が連携協定を結ぶ5つの大学から参加した計26人で構成。
15	2月23日	静岡新聞	教育への奉仕たたえ常葉 大生を表彰	国立青少年教育振興機構（東京都）は同機構が企画した児童・生徒向け自然体験活動などの教育事業にボランティアとして参加した常葉大教育学部4年生5人を表彰。

地域貢献センター関連事業のメディア等での報道（一部抜粋）

No.	掲載日	媒体名	タイトル	概略
1	2018年 4月27日	静岡新聞 朝日新聞	常葉大 地域連携へ新拠点	学生が地域課題に主体的に取り組むための拠点「地域貢献センター」を開設。包括連携協定を締結した5市町2団体や他大学との連携推進、学生ボランティアを地域に派遣するための窓口業務、一般向けの講座開催に向けた機能強化、地域連携に関わる広報活動を同センターが担う。地域社会の動向やニーズを的確に捉え、本学が地域連携の拠点になるよう尽力していく。
2	6月17日	静岡新聞	JR草薙駅前を清掃 常葉大生と静銀社員	常葉大の学生と静岡銀行の社員がJR草薙駅周辺で合同のクリーン作戦を展開。今春草薙キャンパスがオープンした同大の学生と、R1を挟んだ位置に本部がある同銀行の社員が、共同で地域貢献できないかを話し合い、今回のクリーン作戦は初めての取り組み。
3	7月29日	静岡新聞	浜松市体協と常葉大が 連携	浜松市体育協会と常葉大学が、スポーツを通じた市民の健康増進や選手、指導者の育成を目指す連携協定を締結。
4	8月3日	静岡新聞	西日本豪雨義援金	常葉大学草薙キャンパス地域貢献センター学生スタッフ一同 義援金額：6万2060円
5	8月16日	静岡新聞	児童キャンパス探検 常葉大学生と勉強会も	地域との交流促進を図る常葉大地域貢献センターは、小学生向けのレクリエーションと勉強会を開催。地元の児童約35人が参加し、キャンパス探検を楽しんだり、大学生から勉強を教わったりした。
6	8月21日	静岡新聞	楽しく走って地域見守り	健康増進のためにランニングを楽しみながら、地域防犯の担い手として見守り活動も行う「しずおかランニングパトロール」が始動。 アドバイザーに常葉大・木村佐枝子准教授が就任。
7	9月4日	静岡新聞	地方創生推進へ連携 常葉大と静岡銀行が協定	常葉大と静岡銀行は地方創生関連事業の推進に向けて相互に協力、連携する協定を締結した。互いの資源を活用した地域活性化、観光まちづくり、教育研究・人材育成などの分野で取り組みを進める。 地方創生で同大が金融機関と協定を締結するのは初。

地域貢献センターの使命

平成25年に3大学を統合した常葉大学では、「地域貢献」を教育理念の一つとして掲げ、地域社会に貢献できる人材育成に努め、公開講座をはじめ地域との連携強化に取り組んできました。地域・地方自治体等との連携事業の取組に対し、教職員とともに学生団体にも経費の支援を行っています。

本学の学生の9割が県内出身者で、その多くが県内で就職しており、地域と本学の結びつきは強く、地域活性化の必要性は地域の皆様方から強く求められています。また、若者が集まる大学に対する地域の皆様方の期待も非常に高まっていると感じています。

地域に開かれた大学として、本学の持っている資源を地域の方々のために活用していくために、地域貢献センターはその使命を果たします。

具体的な取り組み

◆地元自治体、諸団体との連携・協力

常葉大学の包括連携協定締結先と連携できる内容を協議し、お互いにとって有意義な協力関係を築いていきたいと考えております。また、「静岡市文教エリア等の発展に向けた相互連携協議会」を、静岡大学、静岡県立大学及び短期大学部、静岡英和学院大学及び短期大学部とともに立ち上げており、各学生が学校の枠を越えて、より地域の活動に積極的に参加できるよう、幹事大学としての役割を果たしていきます。

各市町からの助成金を活用し、教員と学生とが地域の課題解決のために取り組む事業に積極的に参加しています。

◆学生支援

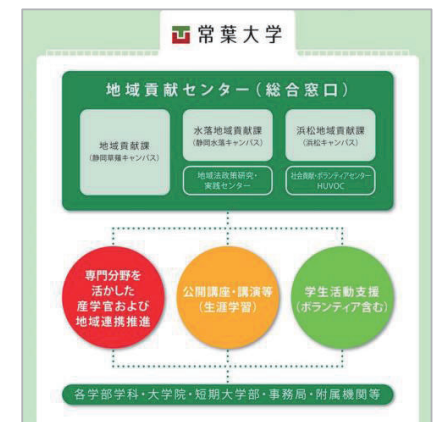
学生ボランティアの地域派遣に際しての窓口業務を担当するとともに、学生独自の地域貢献活動への支援を行うため、学生による地域貢献プロジェクト「**とこは未来塾—TU can Project**」というプログラムを企画し、学生活動への支援を行っています。

◆公開講座

社会人の学び直しや生涯学習の一環として、本学学生以外の方々への高等教育機会を提供するため、地域のニーズに合致した講座を開設しています。

◆広報活動

地域連携を強化し、地域の情報を収集するとともに大学の情報発信に努めています。



包括的連携協定の締結

これまでに協定を締結した自治体等は次のとおりです。平成30年度は新たに4つの協定を締結しました。

No.	協定書の名称	協定締結先	協定締結日
1	松崎町と常葉大学との包括連携に関する協定書	松崎町	2015年10月13日
2	掛川市と常葉大学との包括的連携に関する協定書	掛川市	2015年11月13日
3	藤枝市と常葉大学との包括連携に関する協定書	藤枝市	2016年3月24日
4	静岡市と常葉大学との包括連携に関する協定書	静岡市	2016年6月14日
5	浜松市と常葉大学との包括連携に関する協定書	浜松市	2017年3月27日
6	特定非営利活動法人掛川市体育協会と常葉大学浜松キャンパスとの連携に関する協定書	特定非営利活動法人掛川市体育協会	2017年9月15日
7	常葉大学とI Love しずおか協議会との連携・協力に関する協定書	I Love しずおか協議会	2017年10月26日
8	静岡市文教エリア等の発展に向けた相互協力に係る協定書	静岡市内の複数高等教育機関等	2017年10月26日
9	プログラミング教育推進事業に関する協定書	静岡市教育委員会 株式会社タミヤ	2018年6月13日
10	公益財団法人浜松市体育協会と常葉大学との連携に関する協定書	公益財団法人浜松市体育協会	2018年7月27日
11	常葉大学と静岡銀行との相互協力及び連携に関する協定書	株式会社静岡銀行	2018年8月28日
12	常葉大学と静岡県警察との包括的連携協力に関する協定書	静岡県警察	2018年11月1日



◆ 日本赤十字社静岡県支部

- ・絵本「ハートラちゃんのおはなし」制作

(造形学部・キムゼミ)



◆ Peaterpan (ピーターパン)

- ・SNS (インスタグラム) 作成協力

(経営学部・坪井ゼミ、造形学部・安武ゼミ)



◆ 静鉄プロパティマネジメント株式会社 セノバ事業部

- ・「常葉大学 マーケティングゼミ × 新静岡セノバ VALENTINE

プロジェクト」(経営学部・坪井ゼミ)



◆ TOYOTA SOCIAL FES! 2018

- ・「静岡の美しい自然と野生生物を守ろう！」における牧之原市・相良海岸の整備活動

(健康プロデュース学部・木村ゼミ)



◆ 浜松信用金庫

- ・花のリレー・プロジェクト運営協力之原市・相良海岸の整備活動 (こども健康学科)

◆ 協和医科器械株式会社

- ・「メディメッセージ2018」への出展 (健康栄養学科)



◆ 静岡新聞社・静岡放送、イオンモール浜松市野

- ・こどもみらいプロジェクト (こども健康学科、心身マネジメント学科、健康鍼灸学科、作業療法学科)

◆ 近鉄リテーリング

- ・浜名湖サービスエリア・フードコートメニューコンテスト (健康栄養学科)



◆ 浜松市北区都田協働センター

- ・都田・新都田地区地域課題アンケート調査 (心身マネジメント学科木村ゼミ)

◆ 東洋レジン株式会社

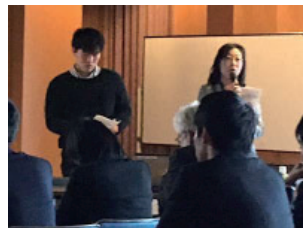
- ・刺さない鍼を活用した市民マラソン会場でのランナーケア (健康鍼灸学科)



自治体等の助成金を活用した地域貢献事業

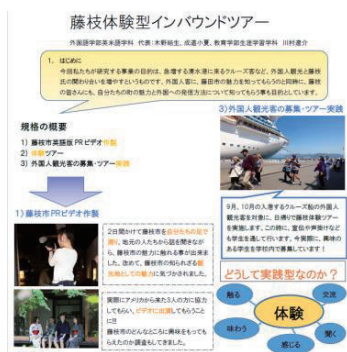
しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業

No.	課題名	担当教員名	連携市課名
1	市内企業におけるSDGsの普及啓発	法学部 柴由花 教授	静岡市企画課
2	多文化共生社会における地域での取り組みについて	外国語学部 江口佳子 講師 増井実子 教授	焼津市市民協働課
3	国際バカロレア教育の推進	短期大学部保育科 鈴木克義 教授	静岡市企画課 静岡市男女参画・多文化共生課
4	移住・定住に関する潜在的欲求と課題の明確化と共有	造形学部 安武伸朗教授	静岡市企画課



藤枝市地域政策研究・創造事業

No.	課題名	担当教員名	参加学生
1	藤枝体験型インバウンドツアーの企画とPRビデオ作成	短期大学部保育科 鈴木克義 教授	外国語学部 教育学部



協定締結先との連携事業

1) 県内自治体（市町）等との連携で実施した主な事業

◆ 松崎町

- ・学生による絵本制作を通じた連携プロジェクト（造形学部）
- ・石部棚田の保全活動（社会環境学部）



◆ 掛川市

- ・シティプロモーション市民会議推進委員
- ・現代社会研究会に活性化プロジェクトの立案

◆ 藤枝市

- ・藤枝市地域政策研究・創造事業助成金
- ・藤枝市女子学生まちづくり推進会議「ふじえだガールズ・ミーティング」
- ・取材型企業情報パンフレット「学生が選んだ魅力ある企業2018」
- ・移住ガイドパンフレット「ふじえだ暮らす」



◆ 静岡市

- ・しずおか中部地域課題解決事業
- ・SGDs for TGC Shizuoka 2019
- ・SHIMIZU ウォーク



- ・しずおかカラダに eat75 事業「0円カフェ」



- ・静岡市「筋力相談会」in ウェルネスパーク静岡
- ・草薙まちづくりインターンシップ

◆ 浜松市

- ・大学生による公開講座開講
- ・食育推進計画に基づく啓発活動
- ・医療救護訓練
- ・東京2020ブラジルホストタウン事業「アスリートフェスティバル」
- ・浜松シティマラソンでのランナーケア活動、選手誘導
- ・浜北にぎわい協議会少子化対策分会



◆ 掛川市体育協会

- ・掛川市健康教室
- ・掛川新茶マラソンにおけるランナーケア
- ・掛川市スポーツ指導者講習



◆ 浜松市体育協会

- ・浜松市スポーツ指導者講習
- ・小学生陸上教室
- ・スポーツ少年団交流会



2) I Love しずおか協議会との連携で実施した事業

- ・初夏のおまちクリーンキャンペーン
- ・冬のおまちクリーンキャンペーン
- ・らぶしズインターン
- ・冬しず 2018-2019 おまちワンダーランド



3) 静岡市文教エリア等の発展にむけたプラットフォーム事業

- ・市民講座「防災マネジメントを考える」
- ・SD研修会「静岡市文教エリア等の発展に向けた課題等の理解及び解決策の模索」



4) 静岡銀行との連携で実施した事業

- ・草薙駅周辺清掃活動
- ・しずおかキッズアカデミー



5) 静岡県警察との連携で実施した事業

- ・しずおかランニングパトロール (SRP)
- ・特別講義「警察行政の現在」
- ・警察署協議会
- ・少年の立ち直り・健全育成 大学生ボランティア



地域交流・連携推進事業

平成 30 年度採択事業

No.	研究テーマ名	代表者
1	掛川市における教育プログラム支援事業	教育学部 木宮敬信 准教授
2	「親子であそぼうABC」(西奈生涯学習センターとの共催事業)の実施	教育学部 永倉由里 教授
3	静岡市の東静岡にぎわい創出事業への支援	教育学部 堀切正人 准教授
4	多文化共生に資する日本人住民と外国人住民の交流事業	経営学部 坂本勝信 准教授
5	伊豆半島におけるフィールドミュージアムの実践	社会環境学部 山本早苗 准教授

前年度採択事業の実施報告会

常葉大学が実施している地域交流・連携活動を学内及び地域社会に広く周知し、意見交換を行う場として例年開催している「地域連携事業実施報告会」を、9月12日(水)に草薙キャンパスにて開催いたしました。

昨年度の「地域交流・連携推進事業」として採択された事業のうち3事業の成果発表と、その他教員や学生による地域連携活動4事業のポスター発表が行われました。当日は、本学の教職員や学生のほか、発表各事業の連携先である地方自治体、交流・連携している企業・団体や他大学関係者など、総勢約90名が参加しました。成果発表会の後には参加者の方々との意見交換も行われ、今後の新たな地域交流や連携活動の展開に繋がる報告会となりました。



学生のボランティア活動

Link

Linkとは…

草薙キャンパス内にある有志のボランティアサークルの代表学生が集まって立ち上げた学生ボランティア・スタッフの総称です。学内公認組織「常葉大学草薙キャンパス学生ボランティアセンター「Link」」として地域貢献課が活動を支援しています。主な活動内容は、(1) ボランティアサークル間の連携・情報共有 (2) 常葉大生主催による独自企画のボランティア活動 (3) 学生に対するボランティアコーディネート、マッチング (4) SNSを活用した大学内外向けの情報共有 などに取り組んでいます。

(活動実績)

- ・ 近隣小学校児童向け夏休みの勉強会
- ・ 平成30年7月豪雨募金活動
- ・ 秋の親子ドッジボール大会



ココスタ

ココスタとは…

ゼミやサークル、クラブなど、社会貢献・ボランティアセンター(HUVOC)に加入している12の団体の総称です。各団体は、それぞれの特色を活かした地域貢献活動やボランティア活動を行っており、これらの団体が交流を深め、より幅広く様々な要請に応えることを目的に結成されました。月1回の会議や活動報告会を実施し、交流を深め、情報共有により、さらに発展的な社会貢献やボランティア活動に繋がっています。

[登録団体] Cocoa、食プロデュース、こボラ、ネイチャーサークル、ATサークルCATS、木村ゼミ、BBS会、障☆スポSC、Thunder Birds、SinQ、陸上競技部、3.11はままつ東北復光プロジェクト

(活動実績)

- ・ はまきたキッズイベント
- ・ 浜松シティマラソン
- ・ 掛川・新茶マラソン
- ・ 3.11復光キャンドルナイト
- ・ こどもみらいプロジェクト
- ・ ココスタ報告会・交流会



その他

- ・ 地域からの要望に応じた学生ボランティアの募集
- ・ 学生のボランティア活動に対する応談等、求めに応じたマッチングを実施

公開講座の開催

各キャンパスにおける公開講座の実施

大学公開講座 (7テーマ・全27回)

No.	テーマ	実施学部	回数
1	世界の異文化共生を考える	外国語学部	全6回
2	資金運用・新規事業・事業拡大のための基礎講座	経営学部(静岡)	全5回
3	ビジネスを学ぶ	経営学部(浜松)	全3回
4	身体運動を通じた体験	保育学部	全2回
5	体験して、自分のからだを学ぶ	健康プロデュース学部	全3回
6	発達障害を受けとめ、学ぶ	保健医療学部	全2回
7	常葉短大が拓く ことばと音楽の世界	短期大学部	全6回

学部・附属センター主催の公開講座

No.	テーマ	実施学部・センター
1	大学生のためのハンター入門講座	社会環境学部
2	アロマで健康!いきいきライフ	健康科学部
3	持続的な地域とすこやかな暮らし	地域法政策研究・実践センター
4	持続可能な地域と防災	地域法政策研究・実践センター
5	相続と形式的な公平と実質的な公平	地域法政策研究・実践センター

市町との連携による公開講座

◆静岡市生涯学習センターとの共催講座

- ・ 「新たな教育・療育活動としての注目されるスヌーズレンの理論と実践」全3回(教育学部)
- ・ 「現代社会を読み解くー法律、経済の観点から」全3回(法学部)
- ・ 「美術を通して見る異文化ー東アジア・イスラム・西洋の美術」全3回(造形学部)
- ・ 「人生最後まで美味しく食べるためには」全3回(健康科学部)

◆静岡市大学リレー講座

- ・ 「東日本大震災後の災害経験から、静岡県としての「防災」を考える」(健康科学部)

◆プレ金大学 ※経済産業省の事業に静岡市と連携して実施

- ・ 「静岡人材の育成と企業イノベーションー地域企業・市民に開放された新しいキャンパスのカタチー」
- ・ 「デジタル変革を支えるサービスデザインの学び方」
- ・ 「「自分らしく生き生き働く」の実現へ」

◆富士市民カレッジ

- ・ 「健康寿命を延ばす6つのアプローチー自分でできる健康管理・予防ー」
- ・ 「富士山の恵みー湧水ー」

とこは未来塾 ～TU can Project～

学生ならではのユニークな「視点と発想」をもち、「熱意と創意」に満ちた自主的・自発的な取組に対し、大学から教員アドバイザーによる助言や活動資金の援助などの様々な支援を行う事業です。このプログラムに取り組むことで、大学が立地する静岡県を中心とした地域社会への貢献を果たすとともに、学生の若い力が地域の活性化に結び付き、最終的に学生の社会性の醸成に繋がることを期待しています。

◆名称の由来

以前より常葉大学の「学生の地域貢献活動を支援する取り組み」として、静岡キャンパスには「Doing プロジェクト」、富士キャンパスには「ふじとこ未来塾」がありました。2018年4月のキャンパス移転に際し、両事業を統合し、「とこは未来塾 ～TU can Project～」と名称を新たに内容も充実させました。

TUはTokoha Universityの頭文字の「T」と「U」であるとともに、「U」は「you」の意味も含まれています。これは、「インターネットなどでは、Are u going to the concert 2 night?のようにyouの代わりにuが使われている」という例から、このような言葉遊びの楽しさを、学生の皆さんにも感じてほしいという願いも込め、副題をTU can Projectとしました。

◆2018年度採択事業

各キャンパスより応募のあった24件プロジェクトから、審査の結果、12プロジェクトが採択されました。

No.	テーマ名	グループ名
1	目指せ!! 憧れのファッションモンスター～僕・私だってオシャレしたい～	赤塚ゼミ
2	静修活性化プロジェクト～植物と繋ぐ地域の伝統～	浅見ゼミ
3	西里村まるごとエコミュージアムプロジェクト	小杉山ゼミ
4	いなさお助け隊 ～浜松市北区における絶滅に瀕する水生生物の保全～	山田ゼミ
5	学生トレーナーによる高校運動部に所属する生徒へのセミナー事業	トレーナーサークルCATS
6	自分でできる身体のセルフケア	SinQ
7	大学生による「災害支援共助システム」構築に向けての実践的活動	3.11 はままつ 東北復光プロジェクト
8	NPO法人との協働による浜松市北区伊平地域の活性化プロジェクト	地域貢献サークルCocoa
9	プレス浜松×ThunderBirds 地域活性化プロジェクト	ThunderBirds(スポーツ)
10	障がい者スポーツの普及によるバリアフリー地域の構築	障☆スポ SC
11	都田の子どもと自然を繋げよう!!	中村ゼミ
12	南海トラフ巨大地震に活かす健康サポート支援に関する調査研究	ThunderBirds(災害支援)

事業報告会

3月5日(火)に静岡草薙キャンパスにて、「平成30年度とこは未来塾 ～TU can Project～ 報告会」が開催されました。

第一部の活動報告(口頭発表)は、12事業を2グループに分け2会場で行いました。発表10分、質疑応答5分の与えられた持ち時間で、それぞれの代表者を中心に、スライド以外にも映像や実物を披露するなど、事前に準備を重ねた熱の入った真剣な発表が行われました。



それぞれのグループの座長は、教育学部・田井優子准教授と外国語学部・小池理恵准教授が務め、豊富な経験を活かして学生を導く進行となりました。

- ・グループ1…「地域活性化」「障がい者支援」「身体ケア」を中心とした事業
- ・グループ2…「自然の活用」「環境保全」「災害対策」を中心とした事業

口頭発表終了後、各座長からの講評があり、学生自主企画への評価、本事業を通じた地域貢献と学生自身の成長を期待する言葉が贈られました。

地域貢献センター・須佐淳司センター長からの総評では、事業を通じて得た経験や地域貢献への熱意が今後の学生生活で糧となり、次年度以降も継続する地域貢献活動に期待する旨の評価がありました。

第二部のポスターセッションおよび学生交流では、採択12事業に参加した学生が一堂に会しての事業間交流を実施しました。ポスターの前では、口頭発表では伝えきれなかった、事業で苦心した点、今後に向けた課題や抱負など、1年間の事業に対する思いを発表。地域貢献センター・木村副センター長から提案されたSNSを用いた学生交流方法を実践しながら、いつもは別キャンパスでなかなか接点を持っていない仲間との情報交換や交流を楽しみました。

今回の報告会を通じて、学生による地域貢献活動の芽が育っていることを実感すると同時に、次年度の「とこは未来塾」への期待が高まりました。

